

リピーター校での法律教室の 「進化」

2012.6.17
司法書士法教育ネットワーク
第4回定時総会 記念研究会
司法書士 平野次郎

配布資料

- ①寸劇「メールのやりとりのつもりが・・・」
- ②寸劇用資料
- ③司法書士のプロフィール
- ④事前ワーク集計結果
- ⑤寸劇「カードがいっぱいになっちゃった」
- ⑥クレジットカードについて(スライド)
- ⑦生徒アンケート結果

リピーター校のご紹介

- 学校名:大阪府立堺東高等学校
- 対象学年:2年生 学年全体
- 講座時間:65分×2コマ
- 開催経過(平野参加分)
 - I 2010年2月開催(見学のみのみ)
 - II 2011年2月開催
 - III 2011年9月開催

I 2010年2月開催(見学のみのみ)

1 講座内容

(1)一コマ目 契約・悪質商法

- ・日司連ppt教材を使用した「契約」の解説
- ・キャッチセールス(エステサロン)の寸劇
- ・日司連ppt教材を使用した「悪質商法」の解説
- ・相談窓口等の紹介

I 2010年2月開催(見学のみのみ)

1 講座内容

(2)二コマ目 労働の法律講座

- ・一コマ目の「契約」の復習
- ・法教育ネットワークの教材を使用した「労働契約」の解説
- ・アルバイト(コンビニ)の寸劇
- ・労働トラブルに関する専門家の紹介

I 2010年2月開催(見学のみのみ)

2 講座終了後の意見交換内容(抜粋)

- (1)開催校教師の意見
 ・寸劇に取り組んだ生徒の協力もあって、他の生徒も悪く体制になってくれた。
 ・パワーポイント教材は、文字ばかりの画面だと生徒の集中が切れてしまうことがあるが、これには適当なところでマンガが配置されていて、目を向けるポイントになっていたのが良かった。
 ・国語科としては、「抽象的な言葉を使いこなせるように」という問題意識をもっているが、今回のワークシートは少し難しいように思った。
- (2)他校教師の意見
 ・寸劇のシナリオは、「卒業旅行のための旅費かせぎのバイト」という前提であったが、生徒がアドリブで発言したのは「家族のために(やめられない)」という発言。ここに、今の高校生の置かれている現実があるのではないかと感じた。
 ・「労働～」のテキストとワークシートを比較すると、確かにワークシートは「幼い」感じがする。(キャッチセールスのものは)工夫をすればこのまま小学生や中学生でも使えるだろう。だが、ワークシートの内容はこの講座の一つの到達点、テキストの内容は社会科や国語科の教師がさらにフォローすべき「教科の役割」ではないか。
 ・「国語、社会ともに、時間数が減っている。きちんと法のことを教えたいと思っても、「政治経済」が必修でなくなったりもしている。司法書士のみならず、ぜひお願いしたいことだが、教材づくりや講座をしていただくこととあわせて、カリキュラムの問題にも関心をもってほしい。
- (4)その他複数意見
 ・悪質商法の事例としてキャッチセールスを取り上げていたが、携帯電話の契約(料金コースやパケット容量設定のことなど)についてのシナリオ・シミュレーションの方が、より生徒の実情にそって役にたつのではないか。
 (5)司法書士からの意見
 ・難しい法律用語をどう簡単にわかりやすく伝えるか。これは、対高校生だけでなく依頼者・相談者に対しても同じことが言えるが、自分も常に悩んでいる。
 ・事前学習を実施してから講座に取り組むことが、とても効果的だと思った。
 ・生徒の寸劇(ロールプレイ)を取り入れるという手法が効果的だと分かった。

I 2010年2月開催(見学のみ)

3 見学後に私が感じたこと

- ・一部の教材が古くなっているのではないか。特に悪質商法に関してそう感じた。
- ・高校生自身が実際に直面していることや社会問題をテーマとしたほうが良いのではないか。
- ・講師の司法書士は自身が未経験のテーマに関する講義をしない方がよいのではないか。
- ・学校によって講義内容のレベルを変えたほうがよいのではないか。

II 2011年2月開催

1 学校との事前打合せ

○学校の要望

- ・講座のレベルは多少難しくても大丈夫
→この言葉は担当教師の生徒に対する信頼を感じた。大変印象に残った。

II 2011年2月開催

2 講座内容

- 一コマ目 契約・ネットによる悪質商法の話
- ・日司連ppt教材を使用した「契約」の解説
- ・インターネット特有の問題について解説
- ・寸劇「メールのやりとりのつもりが・・・」
(資料①及び②)
- ・相談窓口の紹介など

II 2011年2月開催

3 講義にあたって意識した点

- ・社会問題となっており、かつ、実際に実務で経験したものを取り入れた。
→リアリティと説得力を持たせるため。
- ・ワークシートには、答えが一つだけではない問いも入れた。
→生徒の思考や意見を確認するため。

II 2011年2月開催

4 開催後の教師用アンケート結果(抜粋)

- ・ネットトラブルについては、一つの事例ではなく多数の事例紹介の形式でもよかったのではないか。
- ・寸劇中、演者に対して質問していたが、他の生徒にも質問をして相対的な意見を引き出してよかったのではないか。

5 開催後の学校からの要望

- ・講師の司法書士のプロフィールと高校生へのメッセージの作成(資料③)

III 2011年9月開催

1 前回からの変化

- 打合せで、学校側が懸念している、生徒が近い将来直面しうる問題を打ち明けてくれた。
- ・奨学金について
- ・就職などの労働問題
- ・クレジットカードについて → 講座内容とした
(資料⑤及び⑥)
- 前回開催後に作成した講師司法書士のプロフィールを事前に生徒に配布してもらった。

Ⅲ 2011年9月開催

1 前回からの変化

○事前ワークシートの有効活用(資料④)。

- ・生徒のクレジットカードに関する理解度を事前に調査した。
 - ・司法書士に対する質問事項を考えてもらった。
 - ・事前ワークの結果を踏まえて当日の講義を展開した。
- 生徒とのキャッチボールができた。

毎年同じ高校に行くことで・・・

- ・顔の見える関係性を作ることができる。
- ・双方向で意見を出すことができる。
- ・生徒のレベルに合わせた講義が展開できる。
- ・仮に担当教師が変わっても引き継いでもらうことができる。
- ・お互い講座の流れをつかんでいるので、事前ワークや講座がスムーズに実施できる。